

52 王子製紙の北遠進出と地域住民

～地域の利益を優先して活動した人々～

1 製紙工場の設立

洋紙を生産する製紙工場は、1876（明治9）年までに官民併せて7工場が設立された。王子製紙（最初は抄紙会社、次いで製紙会社、1893年に王子製紙と改称するが、ここではすべて王子製紙と表記する）はその一つで、第一国立銀行を設立した渋沢栄一が中心となって作った企業である。王子製紙は、東京の本社工場で洋紙を生産していたが、1887年になって北遠（遠州北部）山間部の気田村（浜松市天竜区春野町、1889年には近隣の村と合併して気多村となる）に工場の建設を開始した。操業開始は、1889年である。これが画期的であるのは、ほぼ同時期に設立され

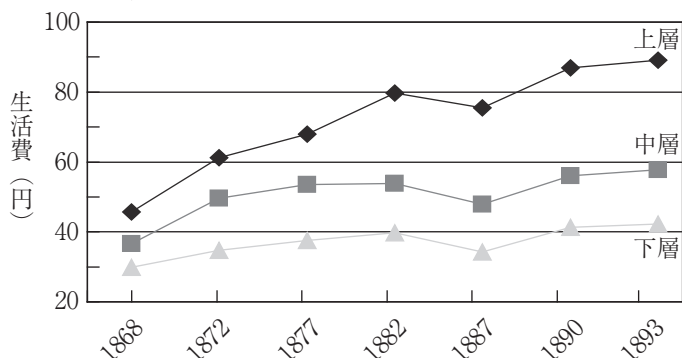
た富士製紙入山瀬工場（富士市）と同様、日本で最初の木材パルプの製造とそれによる製紙を目的とする工場だということである。それまでは破布などの繊維を原料としていたが、これを木材パルプに転換するために、王子製紙は欧米に社員を派遣して調査研究をした。そして本社工場で試験生産したが、都市部に大量の木材を貯蔵することの困難に直面し、原料立地型の工場建設を決断したのであった。

天竜川の支流気田川の上流域には、木材パルプの原料に適したモミ・ツガが豊富にあり、その官林・民有林の入手が可能になったことが、気田進出の最大の理由である。工場で生産された製品は、河川を利用して天竜川下流部に輸送し、東海道線（1889年全線開通）の鉄道に乘せられることも利点であった。

2 北遠山間地域の経済状況

一方北遠の山間地域は、一部林業や茶業に見るべきものがあるものの全体としては自給自足に近い農業依存の生活であり、経済的には恵まれていなかった。そのなかで、1894（明治27）年に気多村から県に報告された報告書〈史料1〉〈グラフ1〉〈グラフ2〉によれば、住民の生計費・冠婚葬祭費が1882～87年の一時期（松方デフレ

〈グラフ1〉気田村の生活費の変遷



『春野町史』資料編三近現代 139頁より作成

の影響か）を除いて着実に増大している。そうした生活水準の向上や消費支出の増大という変化に直面した時、必要になるのは現金収入を得るための方策である。王子製紙が、工場建設を目的として現地調査に入った時、気田村とその周辺の地域はかなり大きな期待を持ってこの動きを見守ったであろう。

3 地元の工場誘致運動

〈史料2〉は、気田村中村和^{なかむらわさぶろう}三郎などの村内有力者が、連名で王子製紙に提出した盟約証である。王子製紙による工場設置が、気田村民にとって幸福をもたらす事業であるとの認識に立ち、地元でも地所購入や工場予定地の家屋撤去など様々な便宜を図るように誓約している。ここでいう「幸福」とは、現金収入（労働需要）や経済波及効果への期待そのものである。そして企業側へ便宜を図ることで、気田進出を確実なものにしてもらおうという願いがよく表れている。

ここで注目されるのは、地元での協力行動の主体が「人民の上位に立つ」村内有力者だということである。中村和^{はろ}三郎は、少し南にある堀^{ほり}之内村（浜松市天竜区春野町）出身で、若くして報徳社の運動に身を投じた人物である。この時は、周智郡役所の吏員でありながら気田村^{ほかに}ほか4か村の戸長を引き受けていた。酒井美^{しゅうち}喜^{さかい}造^{みき}以下14人は、気田在住の有力者と考えられる。

この時期の地元の動きを、静岡大務新聞で探すと次の記事がある。

①栗田輝永・天野伊^{くりたてるながあまのいじゅう}十・長田十^{おさだじゅうべい}平ら工場誘致に尽力（1887. 9. 10）

②地元有力者栗田栄^{えいたろう}太郎ら上京して渋沢栄一に会い、官林・民有林買取等につき協議した。目下、栗田栄太郎山林買取に尽力中（1887. 11. 2）

③栗田栄太郎、別荘を事務所に提供中（1888. 8. 26）

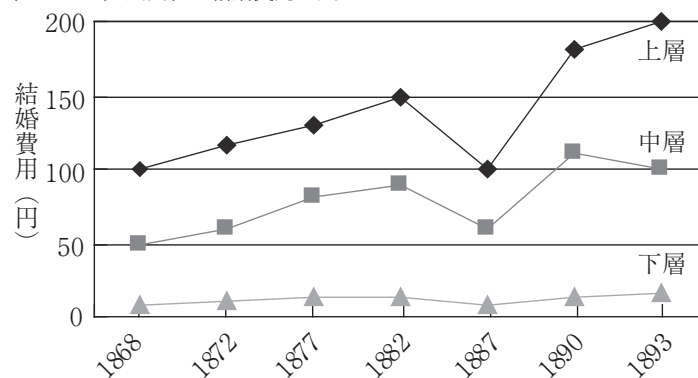
栗田輝永は、同じ気田川沿いの領家村（浜松市天竜区春野町）の「名望家」として知られ、私費を投じて学校や道路造りをしたり、近代的な新事業を興したりした人物である。栗田栄太郎も同様の豪農であると思われる。このような名望家の行動の背景には〈史料2〉の傍線部にあるように「人民の上に立つものは人民のために、幸福を永遠に享受することに尽力するべきである」という言葉に象徴される考え方があると思われる。自分の利益より地域の利益を優先した活動を展開した「名望家」たちや、勤労・儉約によって地域振興を図ろうという報徳仕法に力を入れた気田川沿いの地元有力者たちが、工場誘致および工場建設協力に尽力したところに、この地域の活動の特色を見いだすことができる。

〈参考文献〉

『春野町史』通史編下巻

伊平充宏「王子製紙北遠進出にみる企業と地域の関係」（『遠江』24号）

〈グラフ2〉気田村の結婚費用の変遷



『春野町史』資料編三近現代 139頁より作成

〈史料2〉（王子製紙会社気田工場設立につき村民盟約証）

盟約証

一、今般、当村気田村二王子製紙会社分工場ヲ設置セラレ候義ニ付テハ、当村ノ幸福此上ナキ義ニシテ、我々人民ノ上位ニ立ツモノハ、其人民ノ為メニ幸福ヲ永遠ニ享受スルコトヲ尽力セザルベカラズ。故ニ此回之事業ノ如キハ、当村人民永遠ノ幸福ナルコトニ確認スルヲ以テ、最互ニ盟テ該工場ノ当村ニ設置セラル、様尽力可致コトヲ茲ニ誓約シ、殊ニ左ニ掲グル事項ハ、我々ノ義務トシテ一層ノ尽力ヲ成功センコトヲ希望ス。

一、工場敷地ニ係ル地所買入方示談之事。

一、家屋ヲ取払フベキモノハ一層尽力シ、後采非常ノ難渋ヲ蒙ラザル様、村内一統ノ義務トシテ尽力スルコト。

右誓約致確実ナルコトヲ証明スル為メ、此証書ニ各自自ラ記名調印致置モノ也。

明治二十年十一月十八日

〔静岡県史〕資料編17近現代二 481頁

中村和^{はろ}三郎
酒井美^{しゅうち}喜^{さかい}造^{みき}
岩本^{（一名省略）}栄^{さか}吉^き
長田^{（一名省略）}十^{さか}平^き